

## 「幼児教育の必須」に想う

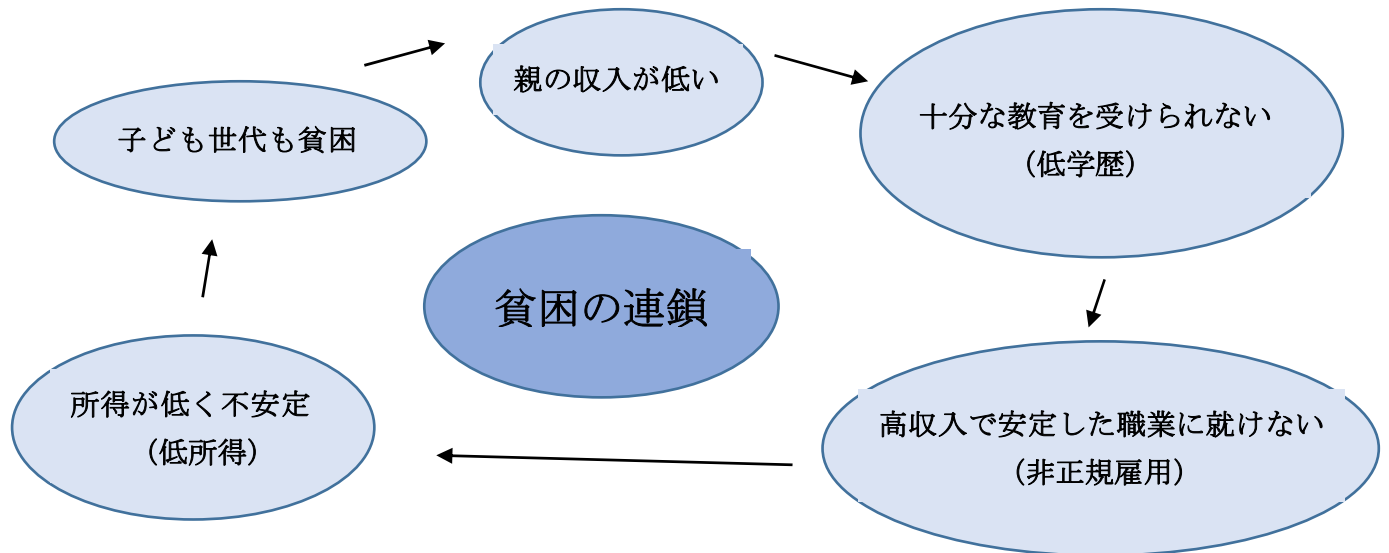
先日「子ども食堂」に関わる講演会に参加しました。

テーマ「子どもの貧困と健康格差 ～周りができることは何か～」

講師：可知悠子氏（北里大学・医学部・公衆衛生学講師）

その中で学んだことは、

- ① 日本ではその人が生きている社会の「普通の生活」を享受できない、相対的貧困の子どもが7人に1人、30人クラス中4人が貧困で、G7、(フランス、アメリカ、イギリス、ドイツ、日本、イタリア、カナダの7つの主要な先進国)で2番目に高い。
- ② 貧困の連鎖とは、



・子どもの貧困の放置で生じる社会的損失は40兆円

- ③ 貧困の連鎖を止めるには幼児教育が必須

- ・幼児教育は子どもの発達へ効果
- ・就学前への投資が最も収益率が高い（基礎が大事）
- ・未就園児の状況が成人期に収入や自覚的不健康などに影響する
- ・保育園・幼稚園はセーフティーネット

孤立することなく、育児情報を得ることができる

預けている間の就労で家庭の収入を増やせる

～女性活躍を推進し社会保障の担い手を増やす～

子育て上の困りごとを先生に相談できる

毎日同じ時間に通うことで生活リズムが整い小学校生活に備えることができる

子どもに発達健康上の問題、虐待の疑いがあれば先生たちが気づいて相談機関

につないでくれる等々

- ④ 先進諸国では4、5歳の9割が就園
- ⑤ 社会経済的に不利な家庭の子どもが幼児教育を受けていない（無園児）
- ⑥ 2019年10月幼児教育・保育の無償化開始
- ⑦ 無園児になる背景には、社会の中で最も声が小さい人たちの抱える問題が凝縮している
- ⑧ 幼児教育「義務化」がなぜ必要なのか？
  - ・最も厳しい環境にいる子どもたちこそ幼児教育が必要
  - ・無償化ではしっかり社会に包摂することができにくい
- ⑨ 義務化の意義
  - ・保育を通して地域社会とつながること
  - ・遊びが重要で、好奇心やコミュニケーション能力を養い、一緒になって様々なルールを自分で作り出して遊んでいく
  - ・「遊びたい」「やりたい」という事を育むような形のあり方が幼児教育で重要 等々

講演の中から周りが出来ることは何かを考えました。

- (1) 子ども食堂を数多く開設
- (2) 社会で子育てする文化を醸成させる（大人の意識を変える）
- (3) 「誰も取り残さない」寛容で優しい社会へ

幼児教育の必須を改めて学びました。

昨年、幼児教育の無償化になりましたが、幼児教育施設に通わなければ、無償化の恩恵は一切受けられません。無償化から取り残された子供はどんな状況に置かれているかを把握し、経済面や言葉、健康・発達上の問題が就園の障壁になっているのであれば、それを取り除く努力をすることが重要で、社会保障であるならばすべての子どもが対象でなければならないと思います。

